

# 道徳通信

No.21 2023年(令和5年)2月21日(火)



学習日：2月16日(木) 内容：「赤土の中の真実」

1946年当時、日本の考古学の世界では、火山灰の降り積もる時代には人間はいないというのが定説でした。そんな中、相沢さんは火山灰が堆積した関東ローム層の赤土の中から奇妙な形をした小さな石片を発見し、その時代に人間が住んでいたのではないかという疑問を抱きます。心ない人たちからの中傷を受けながらも、真実を求め抜く地道な活動を続けた結果、旧石器時代の存在を確定的にし、歴史を変えることになったのです。この相沢さんの姿やその生き方を感じ、学びに生かしていきましょう。

## 【生徒の考え】 「赤土の中の真実」を学び、感じたこと、考えたこと

分からないことを分からないままにするのではなく、最後の最後まで分かろうとすることが大事だと思いました。

あきらめず、自分の信念を貫き通すと報われることがわかりました。

「分からないことをそのままにしないで」というのは、勉強と同じだと思ったので、疑問は解決していこうと思いました。

他人にとらわれず、自分のしたいことに努力し続けることはカッコいいと思いました。私もお金のためではなく、自分らしく生きたいです。

今はSNSなどのインターネットを使うことで調べれば答えが簡単に出来るけれど、調べて簡単に答えが出るものよりも、自分が実際にその場に行って調べるといった行動が大切だと感じました。

つい周りの目を気にしてしまいましたが、自分のしたいことを貫ける人間になりたいと思いました。

自分が好きなことややりたいことに向かって努力をする人の姿はとてもしっかりカッコいいと思いました。自分もカッコいい大人になりたいと思いました。

サッカーのメッシ選手の言葉に次のようなものがあります。「努力すれば報われる？そうじゃないだろ。報われるまで努力するんだ。」

簡単ではありませんが、そういう姿はカッコいいですし、目指していきたいですね。